

これまでの保護者および地域説明会・小中一貫教育校推進委員会で寄せられた
主な意見等に対する区の考え方

I 小中一貫教育等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
1	○なぜ区は小中一貫教育の取組を進めているのか。	○区教育委員会では、「練馬区教育・子育て大綱」において「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備える子どもたちの育成」を目標として掲げています。小中一貫教育はこの目標を実現するための施策の一つであり、小学校6年間、中学校3年間を合わせた9年間を通して、全ての小・中学校で、中学校区を基盤として①授業改善による学力・体力の向上、②連携指導による豊かな人間性・社会性の育成、③滑らかな接続による安定した学校生活の確保をねらいとしています。
2	○なぜ施設一体型小中一貫教育校にする必要があるのか。	○旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の3校は平成23年度から小中一貫教育に取り組んでおり、地域特性を活かした3大学との連携についても進めています。これまで3校が取り組んできた実績を踏まえ、新たな施設一体型小中一貫教育校を設置することで、より高い教育効果を発揮できるものと考えています。
3	○小中一貫教育校となる場合、通常の小学校の教育プログラムを終了した児童が編入することは可能か。	○施設一体型小中一貫教育校も中学校選択制度の対象としており、他の小学校から一貫中学校へ入学したり、一貫小学校から他の中学校へ進学したりすることも可能です。 ○また、小中一貫教育校であっても、授業の先取り等は行わず、学習指導要領に基づいて学習指導を行っているため、他の小学校からの入学や他の中学校への進学に対しても支障がないよう対応しています。

4	<p>○施設一体型小中一貫教育校のメリット・デメリットはなにか。</p>	<p>○施設一体型小中一貫教育校では、同一施設内である利点を活かし、「教員間の連携強化」「異学年交流の活性化」「同一施設内での円滑な移行」等により、教育効果が高まることが期待できます。</p> <p>○一方、9年間を一貫した学校に在籍するため、人間関係が固定化されやすいことや、他の小中学校のように児童・生徒が区切りを意識して新たな学校生活をスタートさせることが難しいなどのデメリットもあります。こうしたデメリットについては、様々な異学年交流の実施や学年段階の区切りを設けること等により、解消できるよう学校で対応しています。</p> <p>また、クラブ活動や移動教室等の様々な機会を捉えて6年生がリーダーシップを発揮できる場を創出するなど、学年の枠にとらわれない弾力的な教育活動と小学校・中学校の区切りを意識したメリハリのある教育活動の両立ができるよう取り組んでいきます。</p>
5	<p>○小中一貫教育校になることでトラブルに巻き込まれる年齢が低年齢化することはないのか。</p>	<p>○東京都で小中一貫教育校が他にもありますが、そういった事例の報告はありません。</p> <p>○小中の発達段階の違いは当然ありますが、校庭を分けるなど安全面の配慮は行います。</p> <p>○中学生は小学生の面倒をみたり、小学生は中学生を目標としたりするなどの傾向は見られます。教職員もトラブルがないよう配慮していきます。</p>
6	<p>○魅力的な小中一貫教育校とするためには、ハード面だけでなくソフト面も充実させていく必要がある。</p>	<p>○9年間の一貫した教育活動を活発に展開することができる施設一体型の利点を生かし、小中学校教員が一体となって学力・体力・豊かな心が調和した学びの充実を図っていきたいと考えています。</p> <p>○また、準備期間中においても、引き続き、新校の開校を見据え、小中一貫教育の取組、教育内容の充実を図るとともに、保護者および地域の皆様からご意見を伺いながら旭丘・小竹地域の特性を活かした魅力ある学校づくりを進めていきます。</p>

7	○区内における施設一体型小中一貫教育校の設置状況は。	○区内における施設一体型小中一貫教育校としては、平成23年4月に、大泉桜学園を開校しています。
8	○大泉桜学園にも特別支援学級はあるのか。小中一貫教育校になることにより、どのような効果があったか。	○大泉桜学園には特別支援学級はありません。 ○現在、旭丘小学校の特別支援学級と旭丘中学校の特別支援学級では、定期的に合同の歩行学習（遠足）などの交流を実施しています。施設一体型の小中一貫教育校になることで、より日常的に交流学习等を行うことができると考えています。
9	○大泉桜学園の小中一貫教育校の取組の効果について疑問である。	○大泉桜学園では、9年間を見通した学習指導によって、指導方法の工夫や改善が図れるようになっていくこと、小中合同行事や幅広い異学年交流が子どもたちの人間性や社会性の育成につながっていること、小中学校教員の協力体制によって学校生活に対する満足度が上がっていることなどが確認されています。 ○また、発達段階を踏まえ、1～4年生、5～7年生、8・9年生の三期に分けて学習指導や生活指導を行っています。こうした学年段階の区切りを設けることで、各期のリーダーとして4年生、7年生、9年生のリーダー性が育つとともに、小学生が中学生を身近に感じて手本としたり、小学生のよき先輩になろうという中学生の自覚が一層高まったりします。

II 新校の教育活動・学校運営等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
10	○新校の教職員の配置はどのようなのか。	○区では、施設一体型小中一貫教育校であっても、小学校・中学校それぞれの教職員の配置人数は変わりませんが、管理職については、校長1名・副校長3名の体制となります。 ○施設一体型の利点を活かし、小・中学校の職員室を一体化することで連携強化や移動の負担の軽減等を図るなど、校務の効率化に取り組んでいきます。

11	○一部教科担任制は、先生の負担が減るのでよいと思う。	○新校においては、施設一体型のメリットを活かし、小学校で一部教科担任制の導入について検証するなど、より効率的な指導体制を検討していきます。
12	○校歌はどうなるのか。	○新校の校歌については、校章・校歌検討部会を中心に、児童・生徒や保護者、教職員、地域の方からご意見を伺いながら検討していきます。 ○今後、児童・生徒や保護者、教職員、地域の方を対象に校歌に入れたい言葉を募集し、制作する予定です。
13	○標準服（制服）は子どもが着たいと思うものがよい。ジェンダーレスの観点から男女ともスラックスを選択できるとよい。	○新校の標準服（制服）については、標準服等検討部会を中心に、児童・生徒や保護者、教職員のご意見を伺いながら、導入の有無等を検討していきます。 ○なお、標準服（制服）を導入する場合は、女子スラックスを導入する予定です。 ○大泉桜学園では、開校当初は希望者のみ標準服（制服）を着用という形から始め、当時の保護者や地域のご意見を伺う中で、段階的に導入が進み、現在では完全導入となっています。中学生（第7～第9学年）は、標準服（制服）を着用することにより、所属感や学校生活への意欲が高まっています。
14	○学校行事だけでなく、授業やクラブ活動、交流活動等においても、大学や地域の施設等と連携してほしい。	○他自治体の事例等も参考にしつつ、これまで3校が取り組んできた3大学の学生による合唱指導やオペラ鑑賞会、留学生との交流といった大学連携等の活動をさらに充実させるなど、引き続き、保護者や地域等のご意見を伺いながら旭丘・小竹地域の特性を活かした魅力ある学校づくりを進めていきます。

Ⅲ 設計・学校改築等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
15	○体育館や教室等には冷房を設置してほしい。	○体育館や教室等には、空調設備を設置する計画です。
16	○P T A室は設置されるのか。	○区では、学校施設の標準化の考え方に基づき、今後改築する学校においてはP T A専用室を設けないこととしています。 ○P T A専用室を設置していない学校では、会議室等をP T Aの活動場所として利用するなど、学校運営の中で柔軟に対応しています。
17	○渡り廊下を設置予定とあるが、エレベーターを設置するなど、上階への昇降が難しい児童・生徒に対するケアはあるか。	○北棟、南棟ともにエレベーターを設置するなど、渡り廊下を円滑に通行できるように配慮しています。
18	○旭丘小学校と旭丘中学校の特別支援学級についてどのように考えているのか。	○現在、旭丘小学校には知的障害学級と難聴学級（通級学級）があり、特別支援教室（通室）の拠点校となっています。また、旭丘中学校には、知的障害学級があります。 ○新たな小中一貫教育校には、これらの特別支援学級をすべて設置する考えです。
19	○災害が発生した場合、避難拠点として何人くらいの収容を想定しているのか。	○区では、目安として各避難拠点（学校）に700人程度の避難を受け入れられるスペースや備蓄物資を確保しています。新校については、現状の旭丘小学校と旭丘中学校を併せた1,400人程度の想定です。
20	○2校ともに防災拠点として施設機能を強化してほしい。また、感染症併発に備えて、感染症対策も充実してほしい。	○現在、旭丘中学校の体育館は2階にありますが、新校では第一・第二体育館ともに1階に設置し、防災備蓄倉庫を各体育館付近に設置するなど、避難拠点としての利便性がより高くなるよう整備します。 ○区では、感染症対策として、マスク、フェイスシールド、消毒液、非接触型体温計、避難者用屋内テント等の感染症対策物資を各避難拠点に備蓄しています。

21	○工事期間中に校庭や体育館等の施設利用に制限があるのであれば、指定校以外への転校（区外も含む）を簡単に認めるべきと考えるが、配慮してもらえるのか。	○指定校の変更については、申請理由が区の定める承認基準に合致しており、かつ、希望校に学区外から受け入れる人数の余裕があることが必要です。申請理由や希望を丁寧にお伺いし、個別に審査していきます。なお、区外への区域外就学については、他自治体での審査となりますので、希望する自治体にご相談ください。
22	○1学年2クラス×9学年で18教室とのことだが、今後の児童・生徒数の動向は。	○普通教室は、向こう5年間の将来人口推計である東京都教育人口等推計等を踏まえ、小学校・中学校ともに各学年2クラスを想定して設計しています。 ○また、旭丘小学校・旭丘中学校の児童・生徒に加え、小竹地域から新校への小学校就学希望が一定程度あった場合も受入れ可能な規模に設定しています。
23	○開校後に人気が出て2クラス以上になった場合、対応できるのか。	○併せて、小学生と中学生の普通教室の面積を統一して、クラスの増減に柔軟に対応するとともに、少人数教室の転用等の教室の利用方法見直しにより、将来の児童・生徒数増に対応できる計画としています。
24	○通学路が狭いので、道路を拡張してほしい。工事期間中の子どもたちの交通事故も心配である。	○練馬区まちづくり条例に基づき、学校敷地に接する道路のうち、幅員が6メートル未満の道路については、道路中心線から3メートルの位置まで、学校敷地側にセットバックして拡幅します。
25	○学校周辺の通学路はガードレールなどがなく狭い。敷地をもっとセットバックして道路を広げられないか。	○なお、工事を実施している時間帯は、工事ゲートの前や交差点等に交通誘導員を配置し、生徒、児童および近隣住民の皆さまの安全確保に努めています。 ○旭丘小学校と旭丘中学校の間にある区道は、廃道しない計画としています。児童・生徒の敷地の行き来については、校舎2階部分で接続する渡り廊下を利用します。
26	○小学校と中学校の間にある道路はなくなるのか。	

IV 複合施設等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
27	○複合施設はどのような施設で、学区外の方も集まる場なのか。	○地域包括支援センターやまちかどケアカフェは主に地域の高齢者向け施設です。学校と高齢者施設とは分けて使うこととなります。
28	○複合施設、体育館やプール等の地域住民への貸出しを検討してほしい。	○複合施設は、各施設の対象者のみの利用を想定しています。 ○体育館の貸出しについては、今までどおり開放する予定です。 ○プールの貸出しについては、導線確保等の法的に必要な整備を行っていないことから、貸出しの予定はありません。
29	○学童クラブは栄町からの移転なのか、ねりっこクラブの新設なのか。	○新校に設置する学童クラブは、栄町児童館学童クラブを移転して、校内学童クラブ（または校内ねりっこ学童クラブ）として運営します。 ○ねりっこクラブについては、利用する児童の利便性等を考慮し、複合施設内の児童館と近接した場所への配置を計画しています。
30	○他自治体の学童クラブのように、小学校6年生まで利用できるよう検討してほしい。	○高学年については、当面の間、児童館等の併設学童クラブ、ねりっこひろば、学校応援団ひろば等において受入し、異年齢の児童との交流を通じて、児童の健全な育成を推進することとしています。早期に全小学校で「ねりっこクラブ」を実施することで、学校施設内で高学年を含むすべての子どもたちの放課後の居場所を確保していきます。
31	○ねりっこクラブは工事のどの段階で完成し、利用できるようになるのか。	○新校舎内には、学童クラブ室、ひろば室を整備し、整備完了後、年度切り替えのタイミングを目途に、ねりっこクラブを実施する予定としています。 ○現在、旭丘小学校に通学する児童が利用する学童クラブとしては、栄町児童館学童クラブを主にご案内しています。新校舎完成までは、引き続き児童館学童クラブをご利用ください。
32	○工事期間の学童保育はどんな形態になるのか。現状の体制を含めて教えてほしい。	

33	○街かどケアカフェとは、具体的にどのような施設か	○高齢者をはじめとする地域の方が立ち寄り、介護予防について学んだり、専門スタッフによる健康相談ができたりの地域の拠点です。認知症カフェや薬の講座など、様々な事業を実施しています。
----	--------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

V 小竹小の施設整備について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
34	○小竹小学校の校舎の安全性はどうか。	○小竹小学校の施設状況については、平成21年度に耐震改修工事が完了しています。その後も、日常点検のほか、定期点検や法定点検を行い、適切な維持管理を行っています。 ○また、コンクリート強度や躯体の損傷具合を調べるなど、長寿命化の適否に関する調査は行っています。引き続き他校と同様に、施設状況を適切に把握したうえで必要な改修等を行うことで、児童の安全を確保していきます。
35	○小竹小学校も他校と同様に6年の夏には空調が使えるよう必要な施設整備を行ってほしい。	○体育館の空調設備の設置には一定期間の期間を要するため夏休み期間中の工事を予定しています。そのため令和6年9月から使用できる予定です。

VI 小竹小学校の学童クラブの設置について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
36	○小竹小学校の学童クラブもしくは子どもの居場所作りに早急に取り組んでほしい。	○小竹小学校の校内学童クラブの設置については、小竹小学校の今後の方針に合わせて結論を出す予定です。 ○子どもの居場所としては、当面の間、学校応援団で運営するひろば事業や児童館、民間学童クラブ等をご利用ください。
37	○新校の開設と同時に小竹小学校に学童クラブの設置を強く希望する。	○栄町児童館の移転後は、小竹小学校に最も近い学童クラブは旭丘小学校内の学童クラブになります。区立学童クラブは学校により入会できる学童クラブの制限は設けておりませんので、小竹小学校に通う児童も旭丘小学校内や他の近隣学童クラブへの申請が可能です。 ○旭丘小学校内学童クラブは、他校の児童が利用する場合の利便性等を考慮し、複合施設内の児童館と近接した場所への配置を計画しています。

Ⅶ 小竹小学校の統合について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
38	○小竹小学校の今後の対応はどうか。	○新たな小中一貫教育校の設置については、児童生徒数・学級数の現況および将来推計を踏まえ、旭丘小学校と旭丘中学校を先行して、準備を開始することとしています。 ○小竹小学校については、今後の児童数の動向等を見定めつつ、引き続き、保護者や地域の皆様からご意見を伺いながら検討していきます。
39	○新校が開校する令和8年時点では小竹小学校は統合されないとのことだが、統合の見通しはいつ頃出るのか。	○現時点では、判断の時期は決定しておりません。今後の児童数の動向等を見定めつつ、引き続き、保護者や地域の皆様からご意見を伺いながら検討していきます。 ○統合を行う場合は、これまでの例でいえば最低でも2年程度の準備期間を設け、保護者や地域の方との話し合いなどを行っていくこととなります。
40	○小竹小学校は適正規模であるのに、なぜ統合の対象なのか。	○小竹小学校については、現状は適正規模となっておりますが、旭丘小学校・旭丘中学校については今後も適正規模の確保は困難な見込みです。区は、適正規模の確保について学校単体ではなく、広く地域の課題として考えています。 ○また、区全体の人口推計では、今後、年少人口は減少傾向となる見込みであり、3校を再編し新たな小中一貫教育校を設置するという基本的な考え方については変更しておりません。
41	○統合の最終決定は誰がどのような形で行うのか。	○学校は区の条例をもって設置しています。学校設置者である教育委員会が最初に判断し、区長を通じて区議会に提案します。条例の可決を受けて決定となります。

42	<p>○小竹小学校に入学した場合、途中で小中一貫教育校に移動しなければいけないのか。また、小竹小学校に残り下の学年が入ってこないというような場合はどのような対応を考えているのか。</p>	<p>○統合する場合は、最低でも準備期間として2年は必要と考えています。光が丘第四中のケースでは、在校生が卒業してから廃校となりました。</p> <p>○小学校は6年と期間が長くなります。統合する際には、事前に両校の児童の交流事業を行ったり、児童の悩みを聞けるスタッフの配置を行ったりするなどの工夫が必要と考えています。</p> <p>○何年度から始めるということや交流期間を何年間確保するなど、議論が必要と考えています。</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VIII その他

No.	主な意見	意見に対する区の考え
43	<p>○練馬区全体として、小規模校を統合して規模を大きくする計画は今後も続いていくのか。</p>	<p>○区としては、急速な少子化を踏まえた今後の児童・生徒数の動向や施設の改築時期、35人学級編制の実施などの要素を鑑みた検討が必要と考えています。</p> <p>○昨年12月に「第二次適正配置基本方針」の素案を公表し、区民の方々からご意見をいただいたところです。区は新たな方針に沿って、適正規模・適正配置を進めていきます。</p>
44	<p>○小規模校にはその良さがあり、魅力を感じている方もいる。適正化を図れば良いという訳ではない。</p>	<p>○国は学校教育法施行規則において、学級数の標準規模を12～18学級と定めています。教育委員会では、小学校では全学年でクラス替えを可能とし、同学年に複数の教員を配置できること、中学校では生徒同士の交流や学習面、部活動の充実を図るため、新たな方針においても、いずれも12～18学級を適正規模としました。児童・生徒数の減少が予測される中、子どもたちが良好な教育環境の中で学び成長することができるよう適正配置を進めることとしています。</p> <p>○一方、算数・数学、英語など教科の特性によって、少人数で行った方が効果的な教科については多くの区立小中学校で少人数教育を実施しており、これからも充実していきます。</p>

45	○新校の小学校の通学区域外であっても、希望があれば就学できるように配慮してほしい。	<p>○新校における小学校の通学区域は、当面、旭丘小学校の通学区域を基本としています。小竹地域からの希望者の受け入れについては、令和6年度入学者から、就学の特例を適用し、希望する1年生が入学できるようにしています。</p> <p>【就学の特例について】</p> <p>練馬区小中一貫教育推進方針（平成28年6月策定）では、施設一体型小中一貫教育校の場合、中学校の学区内に居住する児童は、小学校入学時に希望があれば、原則として新校の小学校に入学できます。施設一体型小中一貫教育校である大泉桜学園においても就学の特例を適用しています。</p>
46	○新校の検討状況等についてホームページ等で情報発信を行ってほしい。	<p>○説明会で使用した資料やいただいた主なご意見および区の考え、また、保護者および地域の代表等で構成する小中一貫教育校推進委員会の主な内容等について区ホームページに掲載しております。</p> <p>練馬区ホームページ > 子育て・教育 > 教育 > 学校教育・施設 > 小中一貫教育の推進 > 施設一体型小中一貫教育校 > 現在進めている取組 (旭丘・小竹地域における新たな小中一貫教育校)</p> 